

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について（公表）

塩尻市教育委員会

1 趣 旨

本年4月19日に実施した「平成28年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

2 調査の概要

(1) 調査の目的（文部科学省）

義務教育の機会均等とその教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第6学年	9	9（100%）	532人
中学校第3学年 （両小野中学校を含む）	6	6（100%）	585人

(3) 調査の事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

・国語、算数・数学はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」（A）と「主として『活用』に関する問題」（B）を出題。

(イ) 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

イ 学校に関する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

3 調査結果

塩尻市教育委員会は、市教育センターを中心に、今回の全国学力・学習状況調査の趣旨を踏まえ、結果を分析し、その考察を行いました。

(1) 教科に関する調査結果の全体概要

ア 小学校第6学年は、国語A・B、算数A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。特に、国語Bについては、全国及び県平均正答率を大きく上回りました。

中学校第3学年についても、国語A・B、数学A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。特に、数学Bについては、全国及び県平均正答率を大きく上回りました。

イ 国語、算数・数学については、全国の傾向と同様に、「主として知識に関する問題」（A）は、「主として活用に関する問題」（B）より、平均正答率の高い結果となっています。

(2) 各教科の調査結果と今後の対応の概要

ア 小学校（国語）

主として知識に関する問題「国語A」の調査結果を見ると、基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いていると言えます。特に、「漢字の読み・書き」については、定着が進んでいるものと考えられます。しかし、「ローマ字の読み・書き」については、正答率が低い状況となっており、課題として残りました。

主として活用に関する問題「国語B」の調査結果を見ると、「文章の内容を的確に捉えること」「目的や意図に応じて自分の考えを書くこと」など、「読むこと」「書くこと」等において比較的高い活用力を身に付けています。

今後は、ローマ字など既習事項の定着化を図る取組を工夫するとともに、「話す・読む・書く」等を関連させた豊かな言語活動を通して、活用力を一層高めていくことが望まれます。

イ 小学校（算数）

「算数A」の調査結果を見ると、「割合」についての理解にやや課題があるものの、「数量」や「図形」の知識・技能などについて、概ねよい定着率を示しており、基礎的・基本的な内容を着実に身に付けてきていると言えます。

「算数B」を見ると、「図形」の発展問題には課題が見られましたが、「数学的な見方・考え方」について、いずれの領域においてもバランスよく力を付けてきていると言えます。

「割合」や「数量と図形が組み合わさった問題」に課題をもっている児童も少なくないことから、今後は、百分率の理解を深めたり、式や形を関連付けて考え記述する取組を増やしたりすることが望まれます。

ウ 中学校（国語）

「国語A」の調査結果を見ると、「毛筆書写」の理解など一部に課題は見られますが、言語についての基礎的・基本的な内容は概ね身に付いていると言えます。特に、「漢字の読み・書き」「語句の意味」「語句の文脈の中での使い方」などに高い定着が見られました。

「国語B」を見ると、「文章の構成を捉えること」「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」など、「読むこと」「書くこと」の活用力は概ね良好な状況ですが、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考え書くこと」に課題が見られました。

今後は、文章を読んで新たな疑問や課題について考えたり、自らもった課題について図書館や情報機器を活用して解決していく学習に取り組んだりして、読みを深め、課題解決に向けた方法を考え記述できる総合的な力を高めていくことが望まれます。

エ 中学校（数学）

「数学A」の調査結果を見ると、「数と式」「図形」「関数」などの基礎的・基本的な内容について概ね理解できていると言えます。特に、「正負の加法」「方程式の関係」「比例」等については、高い定着が見られました。しかし、「自然数の意味の理解」「反比例」等については、課題が残りました。

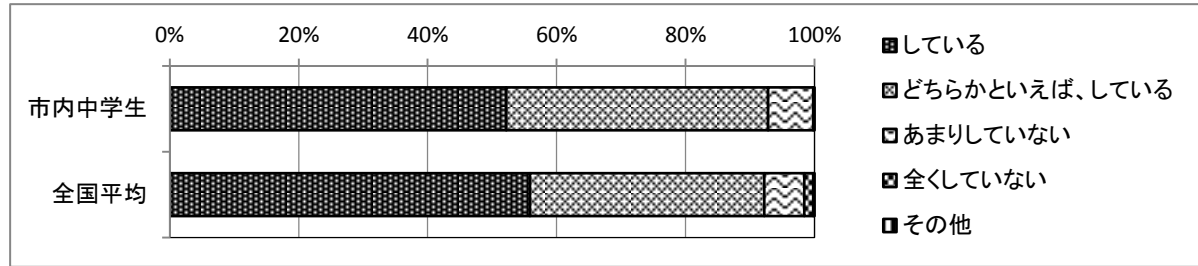
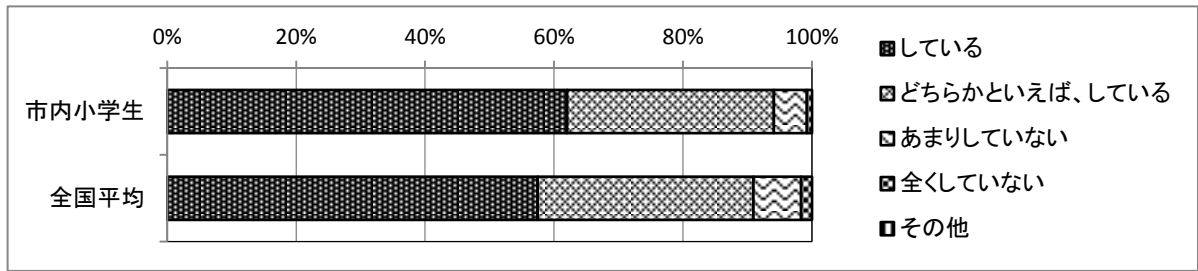
「数学B」を見ると、全般的に、数学的な見方や考え方が伸びてきていることがうかがえます。特に、「数と式」や「関数」領域の「示された情報から必要な情報を選択し処理する問題」については良好な結果でした。しかし、全国と同様、「関数」の事象に即した解釈や、与えられた条件で説明・記述することに課題が見られました。

「数学B」については、個人の正答率に2極化の傾向も見られますので、今後は、「関数」についての理解を一層深めるとともに、事柄が成り立つ理由を説明・記述する活動に粘り強く取り組んでいくことが望まれます。

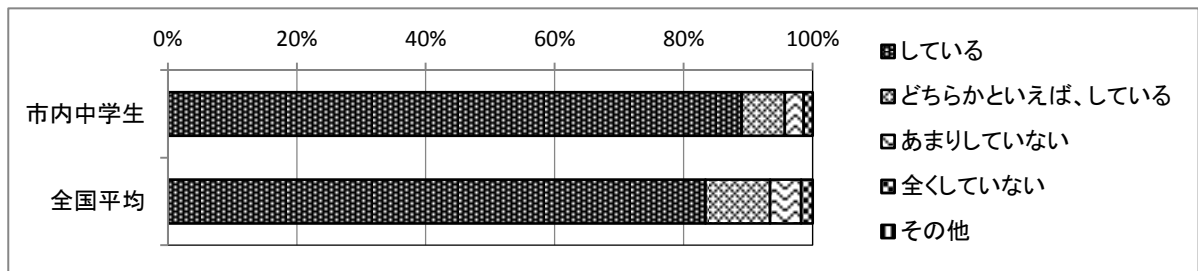
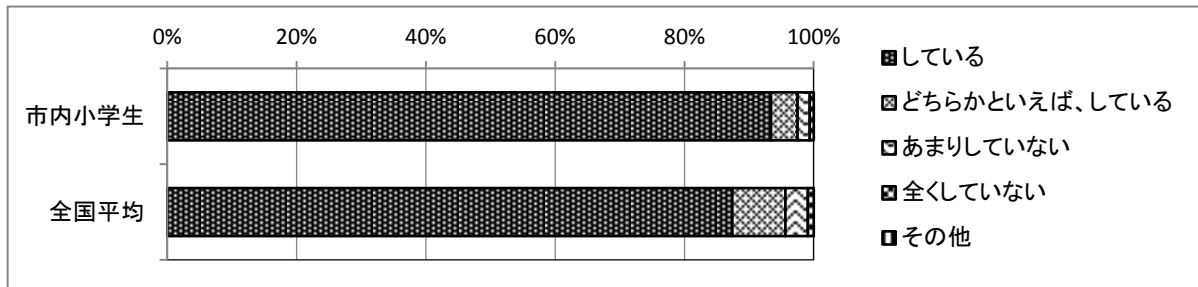
(3) 生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査結果の実態

ア 塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の観点から

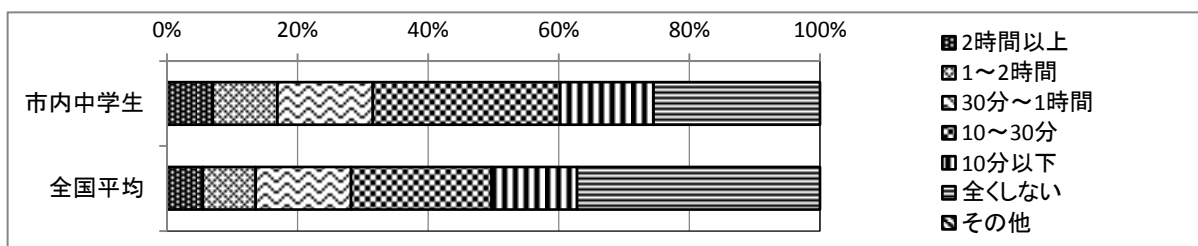
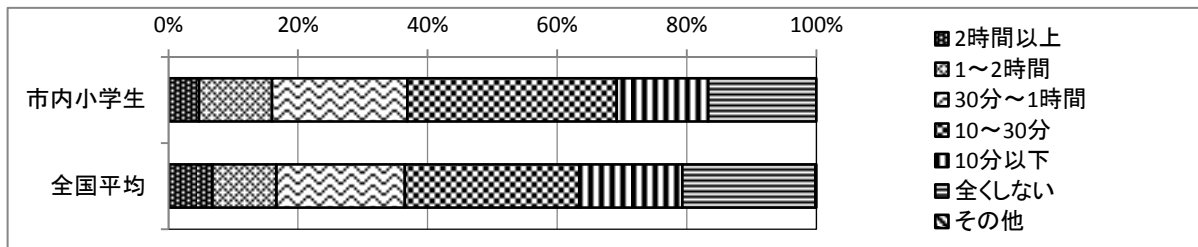
(ア) 【毎日、同じくらいの時刻に起きているか】



(イ) 【朝食を毎日食べているか】



(ウ) 【平日の読書時間】

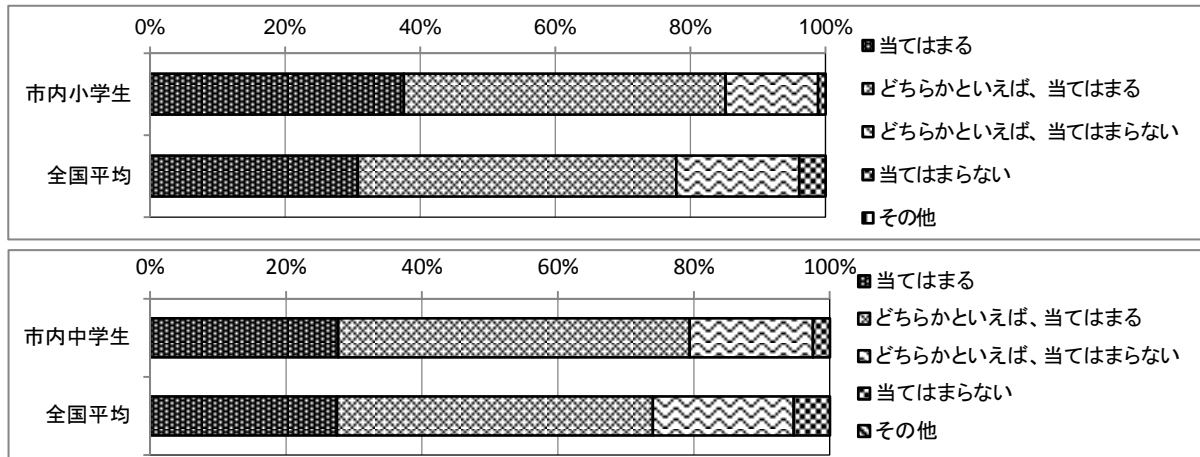


「早おき」については、9割以上の児童生徒が規則正しい生活をしていると答えています。「早ね」についても、中学生になると就寝時間がやや遅くなりますが、「早おき」と同様の傾向を示しています。「朝ごはん」についても、「している」「どちらかといえば、している」は小学生97.5%、中学生95.7%であり、良好な状況です。

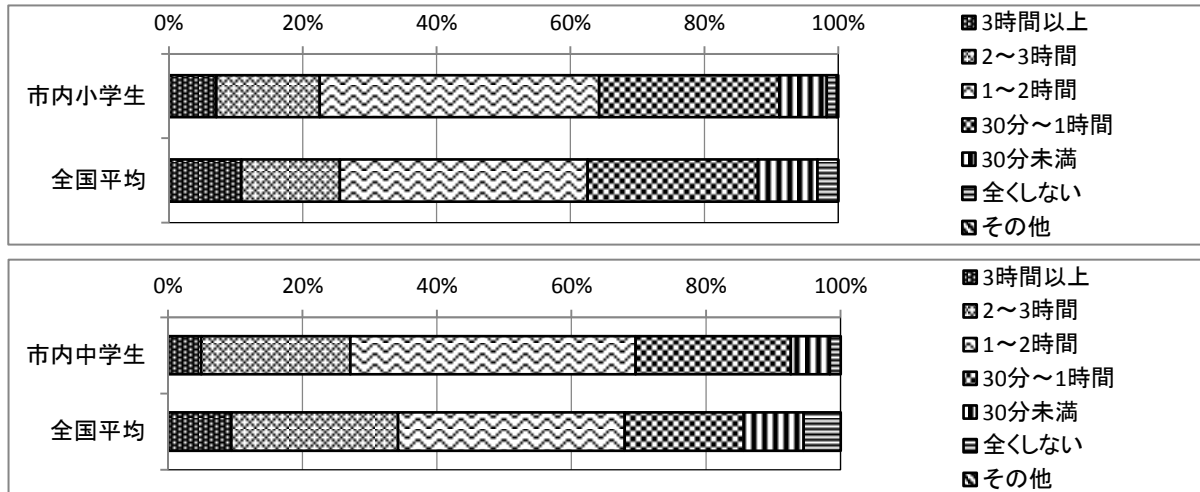
また、平日の家庭での読書時間は、「10分以上」で見ると、小学生69.2%（全国63.5%）、中学生60.2%（全国49.7%）であり、全国に比べ、いずれも6～10ポイントほど高くなっています。各校での全校一斉読書や、読書ボランティアの導入をはじめとした市立図書館や地域と連携した取組が成果として現れているものと考えられます。

イ 学習に関する観点から

(ア) 【授業では、課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか】



(イ) 【平日1日の家庭での学習時間】



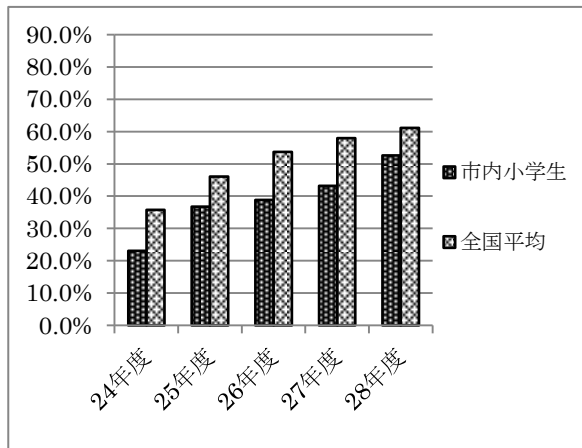
授業の課題への自分からの取組については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生85.2%、中学生79.2%であり、全国に比べても高い結果でした。先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢で授業に臨んでいたことがうかがえます。

また、平日の家庭学習は、いずれも1時間から2時間が最も高く、小学生41.7%、中学生42.4%となっています。家庭学習2時間以上は、小学生22.5%（27年度22.7%）、中学生27.1%（27年度34.5%）で、小中学生ともに昨年度よりやや減少しました。30分より少ない児童生徒の割合は、小学生8.6%（27年度6.8%）、中学生7.4%（27年度5.5%）であり、昨年より若干増加しました。児童生徒一人一人の状況に応じた働きかけを図っていくことが望まれます。

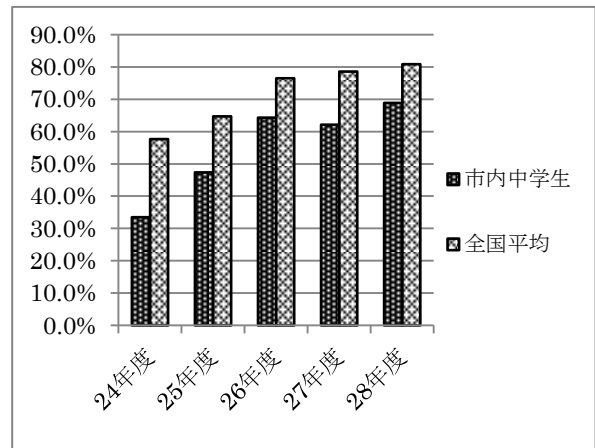
ウ その他の観点から

(ア) 【携帯電話やスマートフォンの所持率】

【小学校】

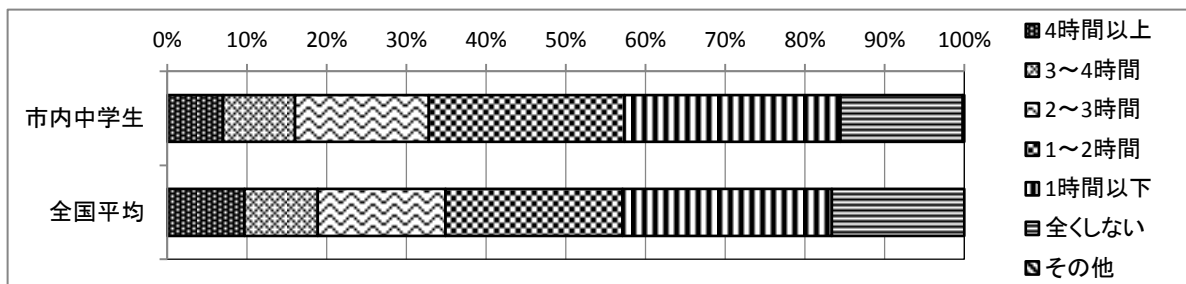
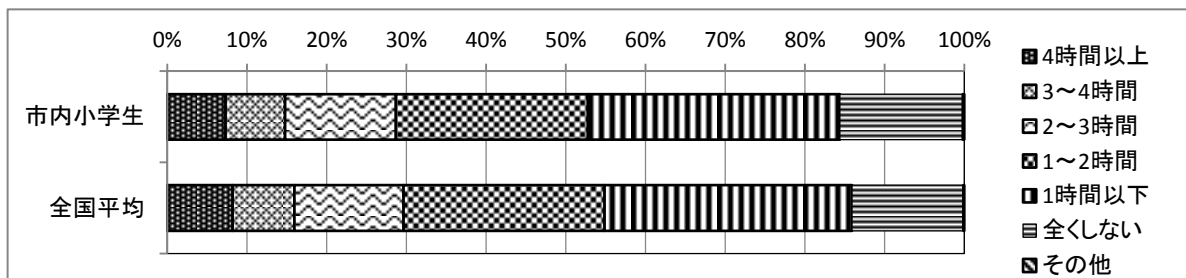


【中学校】



携帯電話やスマートフォンを所持している本市内児童生徒は、小学生が今年度は昨年度より、9.4ポイント増加し、50%を超える所持率となっています。中学生は、昨年度より7.1ポイント増加し、70%に迫る所持率となっています。ますます進む情報化社会の中で、ルールやマナーなどを守って適切な使用ができるよう情報モラル教育を継続していく必要があります。

(イ) 「テレビゲームの使用時間」(コンピュータ・携帯式ゲーム、スマホ等のゲームも含む平日1日の使用時間の割合)



ゲームを1時間以上している市内小学生は52.8% (27年度50.6%)、市内中学生は57.3% (27年度53.9%)であり、昨年度より増加しました。携帯電話やスマートフォンを所持している児童生徒の増加に伴い、平日1日あたりのテレビゲーム(コンピュータ・携帯式ゲーム、スマホ等のゲームも含む)の時間も増加したものと思われます。

ゲームに費やす時間が長いほど、教科の正答率が低い傾向が見られます。保護者の協力を得て、1日の生活時間の有効活用を呼びかけ、「一定の時間でゲームのスイッチを切る」「スマートフォン使用の約束を決める」等の具体的な取り組みを一層進めていく必要があります。

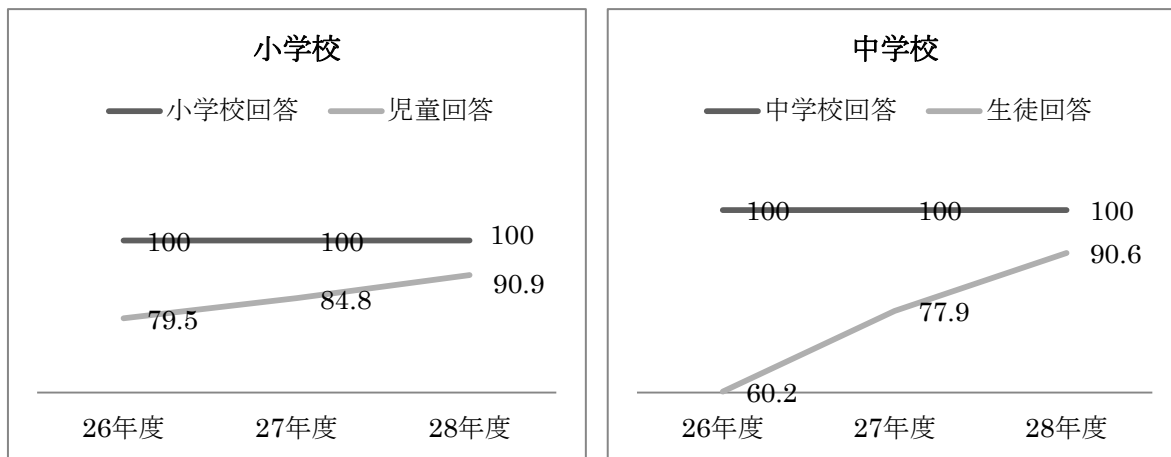
4 これまでの取り組みの成果

学校質問紙からみた学力調査結果に良好に反映していると思われる要因

(1) 教科指導

ア 授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）を示す」活動を位置付ける授業の実践が進んできています。子どもたちも目標を意識し、自分から考えて取り組む主体的な姿勢で授業に臨んでおり、教師と児童生徒双方にとって確かな授業が増えていると考えられます。

【目標設定の割合の変化】（「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の合計：％）



イ 各学校では、「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、家庭学習が効果的にできるよう働きかけるとともに、家庭学習の課題（宿題）を出し、それについて評価・指導する取組も行っています。また、個々の実態に応じた補充学習への取組も進めています。

ウ どの学校も、図書館や新聞等を活用した授業を重視しており、児童生徒の読書の時間の割合、図書館の利用率、地域や社会で起こっているできごとへの関心が全国より高くなっています。塩尻市の市民運動や重点施策に基づいた様々な取組の成果が表れてきています。

エ それぞれの学校では、コンピュータ等の情報通信技術やデジタル教科書、電子黒板、プロジェクターなどを活用した授業を実施し、児童生徒が興味を持って学習に取り組み、内容の理解もしやすいよう努めています。

オ どの学校でも、自校の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しています。また、他校の実践についても学び合い、効果のある取組を自校に取り入れるなどして、指導の改善を図っています。

(2) 児童生徒への支援

ア 各校では、特別支援教育について、研修を通して理解を深め、教室環境の整備、板書や説明の仕方、教材の工夫など、ユニバーサルデザイン化を目指した授業改善に取り組み、児童生徒の特性に応じた指導・支援を進めています。

イ Q-Uアンケートを全小中学校で実施し、その結果を活用しながらきめ細かに生徒指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことのできる学級づくりを推進しています。

ウ コミュニティ・スクールの組織を活用し、地域の人や保護者が、学校の多くの活動に参加し、授業や補充学習などのサポートをしています。学校の教育水準向上に効果的な取組となっています。

5 今後に向けて

(1) 塩尻市の重点施策を活かした学力の向上

塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の市民運動に基づく様々な取組が、小中学生の規則正しい生活や読書時間の割合の高さとなって表れ、教科学習の土台を支えていると考えられます。また、コミュニティ・スクールの趣旨を生かした「学校支援ボランティアによる学習支援」の実践も増えてきています。今後はこれらの取組も継続・充実させながら、「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念とした教育施策を一層推進し、個々の個性や特性に応じた学びを支援してまいります。

(2) きめ細かな支援

本年度、一人ひとりに応じた育ちを応援していく「元気っ子応援事業」とともに歩んできた子どもたちが中学3年生となりました。学校質問紙では、市内全小中学校が「調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている」と回答しています。児童生徒質問紙では、「先生はよいところを認めてくれる」という回答が、小中ともに80%を超えており、子どもたちそれぞれの個性や特性が集団の中で大切にされていると考えられます。これからも、個々が持っている力をさらに発揮できるよう「元気っ子応援事業」を推進します。

また、担任と市単独加配教員との連携によるティームティーチングや少人数学習、小集団学習、個別学習などの指導についても、改善を図りながら継続してまいります。

(3) 教員の指導力向上と授業改善

ア 授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）を示す」活動や、授業の終わりに「学習を振り返る」活動を位置づけるなど、学力向上に効果的であった指導法を継続し、どの教室でも確かな授業が展開されるよう一層努めてまいります。

イ 活用力の向上を図るために、ここ数年間、日常生活に関係付けた学習問題を設定したり、資料を用いて説明したりする学習活動を重視してきました。本年度の調査結果を見ると、一定の成果が表れてきていると考えられますが、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えたり、記述したりすること」には課題が見られました。今後も、教科指導の中で、基礎・基本の定着を図るとともに、「自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、学級やグループで話し合いながらまとめ、発表する、記述する」などのアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習活動を一層充実させてまいります。

(4) 小中一貫した指導内容・方法の研究

小学校と中学校で指導の隙間を生み出さないよう、中学校区毎に教育目標を共有するとともに、9年間の系統的な指導内容・方法について検討し、小中一貫性のある教育の推進に努めてまいります。

(5) 「社会を生き抜く力」の育成

子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら解決する力を身につけるため、「体験的、課題解決的な学習活動」や各校で取り組む「特色ある教育活動」を推進してまいります。

(6) 家庭教育の充実

家族の一員として家庭での役割を果たしたり、遊びやゲーム、読書、家庭学習等の時間をバランスよく配分したりする、自立的な生活づくりが進むよう保護者と協力して家庭教育を充実させてまいります。

6 市内S中学校の学力向上に向けた取組

S中学校では、全国学力・学習状況調査の結果や学校での学習実態等をもとに、学力向上プロジェクトを立ち上げ、「授業改善」「補充学習」「学習への意欲喚起」などを視点に、学習指導の改善を図っています。

生徒から「学習課題や重要という文字が書かれたマグネットカードを使って授業が進むので、板書の内容が分かりやすくなった」「皆で勉強すると集中できるので、放課後学習会は好き」「学習オリエンテーションで家庭学習のヒントをもらい、やる気が出た」の声が寄せられるなど、成果を上げています。

○「ねらい」と「振り返り」に焦点をあてた「S中授業スタイル」の考案

教科が変わっても先生が変わっても、全校共通で取り組んでいく授業のスタンダードとして、全教室に「S中授業スタイル」(右図)のポスターを掲示し、実践化を図っています。

- どの授業でも「学習問題」「学習課題」「重要」のマグネットカードを活用して板書を行い、生徒が課題をもって学べるようにしています。
- 授業の終末段階では、「自分の気づき」「友からの学び」「次時の目標や課題」等を視点として授業を振り返り、1時間の学習の達成度を確認しています。

○「自学意識を高める」ための補充学習の実施

朝学習(自主学習)、Aタイム(全校一斉ドリル)、放課後学習会(毎週水曜日)の場で、自分で考えて学習を進められるよう「自学チャレンジ」を合言葉に補充学習を推進しています。

- 学年スペースの棚へ一人一人が段階的に学べるよう自学プリントを用意しています。
- 県総合教育センターのクリア・チャレンジ問題や高校入試過去問題等も活用しています。
- 放課後学習会には、地域ボランティアによる学習支援を導入しています。

○「これなら自分でもできそうだと思う」学習支援

全校が一堂に会しての学習オリエンテーションを年3回実施したり、「勉強レンジャー」(教職員)が効果的な家庭学習のあり方を示したりするなど、生徒が見通しや意欲をもって学習できるよう継続的に支援をしています。

- 授業への臨み方や家庭学習のポイント、自学の仕方などを各教科・担当から学ぶ「学習オリエンテーション」を4月、10月、1月に実施しています。
- 教科ごとに課している家庭学習(宿題)を教科主任会で集約し、適切な内容や方法等について検討し、全校に提案しています。
- 「S中勉強レンジャー」(教職員)を、定期テスト前の昼放送や学習オリエンテーション時に登場させて、学習方法を伝えたり、意欲喚起を図ったりしています。
- 充実している提出ノートや学習のポイント等を学習掲示板に掲示するなど、効果的な学び方の情報を発信しています。

